

林原美術館主催 第一回 新作公募展



【大賞】(新収蔵品)
「乾漆合子 小鳥と実の行方」 富山明日香



たなごころ

両の手で愛でる、掌のアート。

会期

令和8年(2026)

2月7日(土)～

3月29日(日)

月曜日休館(祝日の場合は翌日)

開館時間: 10時～17時(入場受付は16時30分まで)

会場

ナガセヴィータ・ギャラリー

【林原美術館敷地内】

岡山県岡山市北区丸の内2・7・15

入場料無料

主催 林原美術館

協賛 ナガセヴィータ株式会社、合同会社伝統工芸木炭生産技術保存会
後援 岡山県郷土文化財団、山陽新聞社、RSK山陽放送

〒700-0823 岡山県岡山市北区丸の内2・7・15
TEL (086) 229-1733 FAX (086) 229-3089

Facebook @hayashibara.moa

X @hayashibara1964

Instagram @hayashibara1964

<https://www.hayashibara-museumofart.jp/>



林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

林原美術館主催
第一回 新作公募展



このたび、林原美術館では開館60周年の記念事業として、新進工芸作家への支援と新たな活躍の場を創出する新作公募展「掌」を開催する運びとなりました。本公募展では「両の手で愛でる掌のアート」をコンセプトに、作り手の技術力、表現力、発想力などを総合的に評価し、創意工夫を凝らした独自性のある新作を広く一般へ公開することを目的としています。

第一回目の課題作品は、日本を代表する工芸のひとつで、その卓越した技術・意匠美は国内のみならず、欧米・ヨーロッパを中心に世界からも注目されている「漆芸」です。応募総数70作品の中から、受賞作品10点、入選作品24点の計34点を展示公開いたします。なお、大賞を受賞した作品は、林原美術館の新収蔵品として今後も展覧会にあわせて展示公開を行う予定です。会場は、これまで非公開としていた旧岡山藩主池田家が明治期より使用していた東蔵を改装した「ナガセヴィータ・ギャラリー」です。今後はトリエンナーレとして、工芸の各分野を対象に3年ごとの公募展開催を目指しています。本公募展を通じて、漆素材ならではの活用や新たな可能性を引き出す斬新なデザインを評価するとともに、日本の伝統工芸の魅力を世界に発信する一助となることを願っております。

〈審査員〉

審査委員長 室瀬 和美（漆芸家、重要無形文化財蒔絵保持者）
審査員 唐澤 昌宏（独立行政法人国立美術館国立工芸館館長）
審査員 黒川 廣子（東京藝術大学大学院美術館館長）
審査員 水戸岡 鋭治（デザイナー、ドーンデザイン研究所代表取締役）
審査員 長瀬 玲二（林原美術館代表理事）
審査員 谷一 尚（林原美術館館長）

応募総数70作品の中から、受賞作品10点、入選作品24点の計34点を展示公開。

〈主な展示作品〉



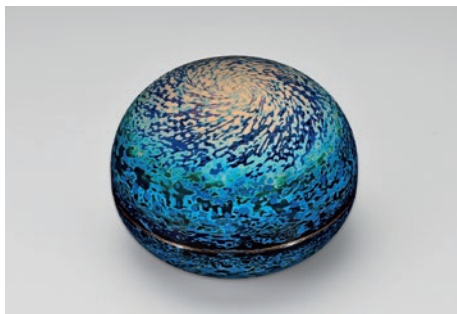
【大賞】（新収蔵品）
「乾漆合子 小鳥と実の行方」 富山 明日香（京都府）



【ナガセヴィータ賞】
「檜薄手剥抜片口」 石井 昭（東京都）



【伝統工芸木炭生産技術保存会賞】
「宇宙の断面」 張 振林（京都府）



【優秀賞】
「Inori」 石村 有弓（石川県）



【優秀賞】
「蒔絵結晶」 中川 寧子（京都府）



【優秀賞】
「箱山II・翠緑」 小西 由紀（東京都）

ほか、全34作品



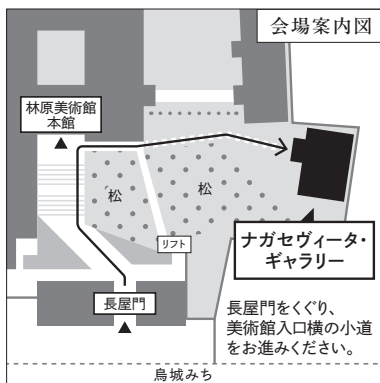
林原美術館
HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 TEL (086) 223-1733 FAX (086) 226-3089
<https://www.hayashibara-museumofart.jp/>
*車椅子対応の設備あります。

林原美術館Web



交通 ●JR岡山駅から徒歩25分 ●路面電車〔東山行〕県庁通下車 徒歩7分 ●岡電バス〔岡電高屋行〕県庁前下車 徒歩3分
●宇野バス〔瀬戸駅前・四御神行〕県庁前下車 徒歩3分 ●循環バスめぐりん〔県庁医大線〕県庁前下車 徒歩3分



【同時開催】
企画展
「愛でたい、
お姫様たちのひな道具」

令和8年(2026)
2月7日(土)～3月29日(日)

本展では、3月3日の節句（上巳）にまつわる資料のほか、江戸から明治にかけて制作された、小ぶりで愛らしいお姫様のひな道具の中から、およそ400点を10年振りに展覧いたします。

立雛図 原在泉筆 明治25年(1892)